

登録速報 (適用拡大)

農薬名：ジベレリン明治

登録番号：第6004号

適用拡大登録日：平成21年4月8日

適用拡大登録内容：作物名に「すだち」および「平兵衛酢」を追加する。

【変更後】

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
かんきつ（不知火、 ぼんかん、かぼす、 はるみ、ワシントンネ ーブル、日向夏、すだ ち、 平兵衛酢、長門ユズヱ （無核）を除く）	花芽抑制による 樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～ 収穫約1ヵ月 後	1回	立木全面散布 又は枝別散布	1回
	落果防止		開花始め～ 満開10日後		散布	
不知火、はるみ	花芽抑制による 樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～ 収穫約1ヵ月 後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～ 満開10日後		散布	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5～1ppm	着色終期 但し、収穫7 日前まで		果実散布	
ぼんかん	花芽抑制による 樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～ 収穫約1ヵ月 後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～ 満開10日後		散布	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5ppm	着色始期～ 4分着色期 但し、収穫21 日前まで		果実散布	
長門ユズヱ （無核）	花芽抑制による 樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～ 収穫約1ヵ月 後		立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止		開花始め～ 満開10日後		散布	
	着果安定	ジベレリン 50ppm	開花期～ 開花終期	花又は 果実散布		
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	収穫予定14～ 30日前	果実散布		
すだち、平兵衛酢、 かぼす	花芽抑制による 樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～ 収穫約1ヵ月 後	立木全面散布 又は枝別散布		
	落果防止		開花始め～ 満開10日後	散布		
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	収穫予定14～ 30日前	果実散布		

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ワシントンネーブル	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～ 収穫約1ヵ月後	1回	立木全面散布 又は枝別散布	1回
	落果防止	ジベレリン 500ppm	満開10～20日 後の幼果期		幼果に散布	
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	収穫直後～ 収穫約1ヵ月後		立木全面散布 又は枝別散布	
	無種子化 落果防止	ジベレリン 300～500ppm	満開 7～10日後		果実散布	

1. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生じるときは、その旨及び内容

① 農薬登録申請書第8項〔2〕(3)を(2)と合わせ以下のとおり変更する。

(2) かんきつ

<落果防止>

- ① 本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用すること。
- ② 果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守ること。

<花芽抑制による樹勢の維持>

- ① 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないこと。
- ② 低温が続いた年(極端な低温の年)または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけること。
- ③ 散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。

② 農薬登録申請書第8項〔2〕(4)を(3)とし、以下のとおり変更する。

(3) ワシントンネーブルの落果防止の目的で使用する場合は次の点に注意すること。

- (1) 異常に結果歩合の低いものは処理しても効果の上がないことがある。
- (2) 通常幼果1果当り小型噴霧器で0.1～0.2mL程度を噴霧する。

③ 農薬登録申請書第8項〔2〕(5)を(4)および(5)とし、以下のとおり変更する。

(4) 長門ユズキチ(無核)

長門ユズキチの落果防止および着果安定の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

(5) 日向夏

日向夏の無種子化および落果防止の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

以上